

# 【 中 津 市 】

## 平成28年度 全国学力・学習状況調査結果（小学校：国語）

### 1 調査結果の分析

#### 小学校：国語A

- ・平均正答率は、全国を1.4ポイント下回っている。
- ・ローマ字の読み書きについては、平均正答率が40～50ポイント程度である。無解答率も高い。（13～23%）
- ・「話す・聞くこと（話す・聞く能力）」については、正答率が70%を上回り改善傾向にある（昨年度60%未満）。

#### ■課題となる問題

問題番号	平均正答率（%）			設問の概要	出題の趣旨
	中津市	大分県	全国		
3	61.6	66.3	67.4	・ルール説明の表現について助言した内容について適切なものを選択する。	・書き手の表現の仕方をよりよくするために助言することができるかをみる。
8-1	54.9	52.1	53.2	・平仮名で表記されたもの（1りんご、2あさつて）をローマ字で書く。 ・ローマ字表記を正しく読む（3hyaku）	ローマ字の読み書きが正しくできるかをみる。
-2	41.4	40.2	41.8		
-3	47.8	49.9	50.7		

### 2 具体的な改善方策

#### 小学校：国語A

- ・漢字の読み書きの定着を図るために、繰り返し練習するだけでなく、様々な場面で実際に使用するよう計画的に指導する。
- ・辞書の利用について、意図的・計画的に指導する。
- ・目的や意図に応じて、表現をよりよくするために助言し合う際に、助言の視点を具体的に示す。（例：書き手の考えが明確に表れているか。段落相互の関係は明確であるか。曖昧な表現はないか。さらに改善する点はないか。など）
- ・ローマ字については、規則性を押さえるとともに、他教科等でコンピュータを使った学習と関連づけるなどして、繰り返し読んだり書いたりする機会を増やすようにする。

# 【 中 津 市 】

## 平成28年度 全国学力・学習状況調査結果（小学校：国語）

### 1 調査結果の分析

#### 小学校：国語B

- ・平均正答率は、全国を1.9ポイント下回っている。
- ・目的に応じて自分の考えを明確にしながら読んだり、表やグラフを基に自分の考えを書いたりすることに依然として課題がある。

#### ■課題となる問題

問題番号	平均正答率（％）			設問の概要	出題の趣旨
	中津市	大分県	全国		
1三	47.9	51.9	50.4	・スーパーマーケットの店長へのインタビューメモを基にして、話の展開に沿った質問を書く。	・話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って質問することができるかをみる。
2二（2）	61.1	65.2	64.2	・「早ね早おき」活動の課題について、（表2）の結果を基に書く。	・目的や意図に応じて、表を的確に読み取り、それを基に自分の考えを書くことができるかをみる。
3三	52.4	55.0	52.9	・「パン職人」について、紹介したい内容をまとめて書く。	・目的に応じて文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読む。

### 2 具体的な改善方策

#### 小学校：国語A

- ・明確な調査目的をもってインタビューメモをもとに、インタビューを行うような学習活動を設定する。その際、用意した質問を行うだけでなく、実際の話の展開に応じて相手の話を言い換えてから質問したり、話題を変えて質問したりするなどの質問の仕方を取り上げて指導する。
- ・国語科だけでなく他教科等においても、調査したり、観察、実験したりして得られた結果などの事実を表やグラフで示し、自分がどのように読み取って分析したのか、そこからどのような考えをもったのかを具体的に記述するような学習を取り入れる。
- ・読む目的によって本や文章の活用の仕方が変わり、そのため要約したり引用したりする部分が変わるということを実感できるよう、「目的に応じて文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読む」ことを継続的に指導する。

# 【 中 津 市 】

## 平成28年度 全国学力・学習状況調査結果（小学校：算数）

### 1 調査結果の分析

#### 小学校：算数A

- ・平均正答率は、全国を0.5ポイント上回っている。
- ・16問中10問で、平均正答率が全国を上回っている。
- ・「数と計算」領域は県平均を正答率が大きく上回っている（県+1.6P）がその他の3領域は全て下回っている。特に「量と測定」領域は県に対し正答率-3.3Pと大きく下回っている。
- ・「図形」領域の「三角形の高さにあたる場所」を選ぶ問題（県-2.0P）このことから、特別な形の三角形（高さが外にある）図形や、三角形を基に求積できる図形について、面積の求め方を考え・学習が不足していると考えられる。
- ・「数量関係」領域の百分率のテープ図から割合を求める問題の正答率が低い（県-2.9P）。また、テープ図から「割合が最も大きい」ものを選ぶ正答率も低い。（県-3.5P）このことから、「百分率」も含んだ「割合」の意味理解、また「もとにする量」と「比べる量」を正しく読み取る力、さらに4年生での「□を用いて正しく数量の関係を式で表す力」が不足していると考えられる。

#### ●課題となる問題

※

問題番号	平均正答率 (%)			設問の概要	出題の趣旨
	中津市	大分県	全国		
5	79.0	81.0	82.0_	三角形の底辺に対応する高さを選ぶ	三角形の底辺と高さの関係について理解している
8	69.1	72.6	74.4	テープ全体の長さを基にしたときの赤い部分の長さの割合が、一番大きいものを選ぶ	全体の大きさに対する部分の大きさを表す割合の意味について理解している
9 (2)	46.3	49.2	50.9	定員と乗っている人数の割合を、百分率を用いた図に表すとき、当てはまる数値の組み合わせを書く	1を超える割合を百分率で表す場面において、基準量と比較量の関係を理解している

小学校：算数B

- ・ 3問中3問で、平均正答率が全国を上回っている。
- ・ 「数と計算」(県-2.6P)と数量関係(県-3.9P)に課題がある。
- ・ 「数と計算」では、「言葉で表した式」から数量関係や与えられた条件を読み取り、必要とする値を求める問題の正答率が低い。小数の計算や、四則の混合した式について、正しく計算できていない。
- ・ 「数量関係」では、単位量当たりの大きさを求めるために必要な情報を判断し、特定することに課題がある(県-5.6P)。
- ・ 「数量関係」ではグラフの1目盛りが表す数に着目して必要な数を読み取り、それを根拠にして理由を記述することができていない(県-5.3P)。

●課題となる問題

問題番号	平均正答率 (%)			設問の概要	出題の趣旨
	中津市	大分県	全国		
2 (1)	52.6	55.1	56.2	ハードルとハードルの間が5mのコースの、スタート地点から4台目のハードルを、巻き尺の何mのところに置けばよいか書く	ハードルの数とインターバルの数の関係を式に表し、4台目のハードルの位置を求めることができる
2 (2)	40.7	48.5	50.5	40mハードル走の目標のタイムを求める式に8.1と4を当てはめて、まなみさんの目標のタイムを求める式と答えを書く	示された式に数値を当てはめて、目標のタイムを求めることができる
2 (3)	10.2	15.1	15.6	目標のタイムを求める式の中の0.4や0.3が表す意味を書く	された式の中の数値の意味を解釈し、それを記述できる
3 (2)	34.2	37.4	38.4	縦39cm、横54cmの長方形の厚紙から、1辺9cmの正方形を24個切り取ることができるわけを書く	縦にかくことができる正方形の数を求め、24個の正方形をかくことができる理由を記述できる
4 (1)	44.8	50.4	48.3	学校ごとの1人当たりの本の貸出冊数を求めるために、学校ごとの貸出冊数の合計のほかに調べる必要のある事柄を選ぶ	単位量当たりの大きさを求めるために、ほかに必要な情報を判断し、特定することができる
4 (3)	19.4	24.7	24.9	A小学校とB小学校の図書委員が表したグラフを見比べて読みとった事柄として正しくない事柄について、正しくないわけを書く	グラフから貸出冊数を読み取り、それを根拠に、示された事柄が正しくない理由を記述できる

## 2 具体的な改善方策

### 小学校：算数A

- ・ 単元ごと、授業ごとの評価規準を明確にし、評価規準に達するための課題、習熟に応じた手立て、学習活動を大切にしたい授業を行う。
- ・ 学んだことをもとにして練習問題や条件を変えた別の問題に取り組む時間を授業で増やし、四則演算の習熟をはかる。
- ・ 図形の面積の求め方を考えたり、公式をつくり出したりする過程で、既習事項と関連づけて説明したり、表現したりする学習活動を増やし、筋道を立てて考える力を育成する。
- ・ 求積のために「どの部分の長さを測る必要があるのか」を考える場面を与えることで、課題解決のために必要な条件を自ら取捨選択できる力を養う。
- ・ 日常生活の中で百分率が用いられている場面を扱う。その中で「割合を整数で表す（百分率）とわかりやすい」という百分率のもつよさも意識させる。
- ・ テープ図・数直線・面積図などを用いて「もとにする量」「比べる量」などの算数的用語を正しく使って説明し合う場面を扱う。
- ・ ○や□、△といった記号を用いて式化する学習だけでなく、「言葉の式」で表したりする活動を十分に行い、記号から文字への置き換えがスムーズに行えるようにする。

### 小学校：算数B

- ・ 「説明する」「表現する」力をつける際、評価規準を明確にし、そこに達するための課題、習熟に応じた手立て、学習活動を大切にしたい授業を行う。
- ・ 条件に応じて割り算の余りをどう処理するかを検討する学習を行う。
- ・ 数量関係が成り立つ場面の問題を式に表したり、逆に式から場面や一般的な関係を読み取ったりする学習を行う必要がある。
- ・ 四則演算の決まりに従った計算が正確に行えるよう繰り返し指導を行い、習熟をはかる。
- ・ 2つ以上の数量を能率的に比べたりするために、「単位量あたりの大きさ」を用いることができるようにする。そのために、異種の数量に比べる学習において「単位量あたり」を根拠に説明したり、表現したりする学習を行う。
- ・ グラフの表し方の学習において、項目の取り方や目盛りの付け方を検討したり、判断したりする活動を行う。
- ・ 日常の事象について見通しをもったり、数理的に処理するよさに気づいたりできるよう、新聞など、教科書以外の教材ももちこむ。

# 【 中 津 市 】

## 平成28年度 全国学力・学習状況調査結果（中学校：国語）

### 1 調査結果の分析

中学校：国語A

- ・平均正答率は、全国を3.6ポイント下回っている。
- ・「話すこと・聞くこと」の領域では、依然として課題が見られる。

#### 【特に課題となる問題】

問題番号	平均正答率 (%)			設問の概要	出題の趣旨
	中津市	大分県	全国		
1二	72.4	77.1	78.1	・絵本のページを提示した意図として適切なものを選択する。	・目的に応じて資料を効果的に活用して話すことができるかをみる。
2二	68.8	72.2	73.2	・文章の一部を別の項目に移す理由として適切なものを選択する。	・集めた材料を整理して文章を構成することができるかをみる。
8二	52.5	57.1	62.4	・資料集を活用するときの留意点を説明したものとして適切なものを選択する。	・奥付を使って本についての情報を得ることができるかをみる。
9-2	17.7	22.7	26.1	・漢字を書く。(今までにないドクソウ(独創)的な考えだ。	・文脈に即して漢字を正しく書くことができるかをみる。

中学校：国語A

- ・目的や意図が明確な「聞く・話す・話し合う」活動を継続的に取り入れるとともに、その際、プレゼンテーションやポスターセッションだけでなく、スピーチや話し合いでも、どのような資料を用いればよいかを吟味したり、提示するタイミングなどを考えさせたりする。また聞き手の立場から資料の効果について考える学習活動も必要である。
- ・文章を書く際に、集めた材料を目的や意図に応じて取舍選択したり、関連を考えて分類したりする学習活動を丁寧に指導する。
- ・本から必要な情報を得る際には、「目的」、「索引」、「奥付」、「まえがき」、「あとがき」などの特徴や役割を理解し、目的に応じて活用できるように指導する。
- ・同音の漢字や形が似た漢字など、間違えやすい漢字に注意するよう継続的に指導する。

# 【 中 津 市 】

## 平成28年度 全国学力・学習状況調査結果（中学校：国語）

### 1 調査結果の分析

中学校：国語B

- ・平均正答率は、全国を5ポイント下回っている。
- ・目的に応じて、様々な情報から必要な情報を取り出したり要約したりすることに依然として課題がある。
- ・根拠を明確にして自分の考えを書くことに依然として課題がある。

【特に課題となる問題】

問題番号	平均正答率 (%)			設問の概要	出題の趣旨
	中津市	大分県	全国		
1二	76.4	82.2	83.3	・関連イベントの「～職人の技を見てみよう～」に参加できる日付として適切なものを選択する。	・目的に応じて必要な情報を読み取ることができるかをみる。
1三	59.6	68.2	68.0	・ちらしの表と裏の表現の工夫とその効果を書く。	・文章の構成や表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えを具体的に書くことができるかをみる。
2一	58.0	64.4	64.9	・雑誌の記事の説明として適切なものを選択する。	・文章の構成を捉えることができるかをみる。
3三	50.8	56.3	57.7	・図鑑の説明を読むことで、よくわかるようになった部分と、その部分についてどのようなことがわかったのかを書く。	・本や文章などからの必要な情報を読み取り、根拠を明確にして自分の考えを書くことができるかをみる。

### 2 具体的な改善方策

中学校：国語B

- ・ちらし、ポスター、パンフレットなど実用的な文章から、資料の特徴を踏まえ、目的に応じて情報を選択、整理するような学習活動を設定する。
- ・ちらし、ポスター、パンフレットなどの構成や展開、表現の仕方に着目し、書き手の意図や目的を考えたり、その効果について考えたりする学習を、自分で文章を書く際の工夫につなげるよう指導する。
- ・項目が立てられた文章では、見出しに着目して読むことで、全体的な構成が捉えられ、おおまかな内容が把握できることに気づくように指導する。
- ・学校図書館等を意図的・計画的に活用し、様々な資料を関連づけて読んだり、自分の疑問に照らして、新たな資料を主体的に選択したりする学習活動を設定する。



# 【 中 津 市 】

## 平成28年度 全国学力・学習状況調査結果（中学校：数学）

### 1 調査結果の分析

#### 中学校：数学A

- ・自然数や正の数・負の数の意味を理解する力は定着が図られている。
- ・4領域全て県を下回っている。特に「図形」(-3.8P)「関数」(-2.9P)「資料の活用」(-3.2P)の3つの領域は大きく下回っている。
- ・36問中31問で県平均を下回っている。
- ・図形を対称移動させる問題の正答率が低いことから、「軸」「対称移動」という数学的用語を正しく理解できていないことが考えられる。
- ・「四角形」「直方体」「四角柱」の違い等、図形、立体の性質、用語が正しく理解できていないための誤答が多い。
- ・「逆」の意味、図形における「=」「≡」の意味の違いを理解できていないために、誤答率や無回答率が高い。
- ・グラフの座標をもとに式化するという、基本的な問題の正答率が低く、県平均も大きく下回っている。反比例のグラフや式に関わる基本的な指導事項の定着が図られていない。
- ・一次関数において、座標を読み取ったり、変化の割合を求めたりすることはできるが、「変域」をもとめる問題の正答率は低く、無回答率も高い。
- ・資料の問題で、「最頻値」という言葉の意味が理解できていないために、誤答、無回答率も高い。

#### ●特に課題となる問題

問題番号	平均正答率 (%)			設問の概要	出題の趣旨
	中津市	大分県	全国		
2 (3)	75.8	81.5	78.2	ある数 $a$ について、不等式 $a > 5$ と表せる事柄を選ぶ	不等式の意味を読み取ることができる
4 (1)	29.2	35.1	30.9	与えられた方法で作図された直線についていえることを選ぶ	垂線の作図の方法について理解している
4 (2)	62.6	70.6	71.8	$\triangle ABC$ を、直線 $l$ を軸として対称移動した図形をかく	対称移動した図形をかくことができる
5 (1)	69.2	76.7	75.5	三角柱において、与えられた辺とねじれの位置にある辺を書く	空間における直線と直線との位置関係(辺と辺とがねじれの位置にあること)を理解している
7 (3)	62.7	68.7	72.3	図形に成り立つ性質の逆の事柄を完成する	命題の逆を理解している
9 (4)	28.5	38.3	34.5	反比例のグラフから式を求める	反比例のグラフ上の点の座標から、 $x$ と $y$ の関係を式で表すことができる
12 (1)	40.2	49.0	45.5	読んだ本の冊数と人数の関係をもとめた表から、読んだ本の冊数の最頻値を求める	資料を整理した表から最頻値を読み取ることができる



- ・式やグラフを用いて、解決のための方法説明する力の定着がはかられている。
- ・15問中11問で県平均を下回っている。
- ・方程式の立式の無回答率が高いことから、数量関係を文章や図から読み取り、さらに式に表すことに課題が見られる。記号や文字を用いて式化する段階から躓いていることが要因として考えられる。
- ・式に代入して方程式を解く、またその結果から得られたことの意味を説明することに課題が見られる。
- ・比例になる、もしくは反比例になる理由を、根拠をあげて説明、記述することに課題がある。
- ・「相対度数」という言葉の意味、また求め方が理解できていない。そのため無回答率も高い。
- ・加わった条件の下で比や三角形の性質など既習事項を関連させて回答する問題の無回答率が高い。

●特に課題となる問題

問題番号	平均正答率 (%)			設問の概要	出題の趣旨
	中津市	大分県	全国		
1 (2)	76.4	78.4	79.3	1 試合の時間を16分とするとき、1回の休憩の時間を求める	与えられた情報から必要な情報を適切に選択し、処理することができる
1 (3)	43.9	49.0	51.4	1 試合の時間を10分とすることができるかについて正しい記述を選び、その理由を式を基に説明する	適切な事柄を判断し、その事柄が成り立つ理由を数学的な表現を用いて説明することができる
2 (2)	14.8	19.2	20.6	$x=4$ のとき $y=9$ になるように、 $x$ と $y$ の間の関係を書き加えることについて、正しい記述を選び、その理由を説明する	加えるべき条件を判断し、それが適している理由を説明することができる
4 (2)	29.0	32.7	37.3	$DA:DC=1:2$ のときの $\triangle DEC$ がどのような三角形になるかを説明する	付加された条件の下で、新たな事柄を見だし、説明することができる
5 (1)	39.7	44.7	47.6	24. 5cm の靴を最も多く買うという考えが適切ではない理由を、グラフの特徴を基に説明する	資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる
5 (2)	25.3	30.6	31.1	25. 5cm の靴が貸し出された回数の相対度数を求める式を書く	与えられた情報から必要な情報を選択し、数学的に表現することができる
6 (3)	46.9	50.2	52.9	当てる方法を変えるとき、新しい数当てゲームの手順について当てはまる言葉を選ぶ	計算の過程を振り返って考え、数当てゲームの新しい手順を完成することができる

## 2 具体的な改善方策

### 中学校：数学A

- ・「めあて」「課題」「まとめ」「ふりかえり」が、評価規準にあったものか、また設定した評価規準が、つけるべき力となっているかの吟味を常に行う。
- ・「数学的用語」や記号の意味、図形の性質を正しく理解できていない傾向があることから、授業の中で意図的に数学的用語を用いさせていく。また「数学的な表現を用いて、根拠を明らかにし筋道立てて説明し伝え合う」数学的活動を充実させていく。
- ・一次関数や反比例の学習では、座標を代入したり、傾きや切片を正しく求めて式に表したりといった基本的な学習を繰り返し行い、定着をはかる。
- ・全体的に、単元の最後の方に扱う内容の正答率が低いことから、単元計画、カリキュラムの見直しを行う。
- ・評価規準を明確にし、評価規準に達するための習熟の程度に応じた手立てを講じた授業を行う。

### 中学校：数学B

- ・「数学的活動」を取り入れた授業における評価規準は特に明確にし、そこに達するような課題や学習活動、習熟に応じた手立て講じる授業を構成していく。
- ・「文字の式がどんな意味を表すか」、「式から得られた結果がどんな意味をもつのか」を説明し、表現する学習を行う。
- ・いろいろな場合の数量関係を、文字を用いてスムーズに式化できる反復練習も必要である。
- ・比例、反比例関係にある具体的な事象について、表、グラフ、式を用いて説明する学習を仕組む。その際、新聞など、教科書以外の日常の事象を教材とすることで、数理的に処理する良さに気づくようにする。
- ・「数学的用語」を正しく用いて説明し合うなどの表現する学習活動を位置づけることで、数学的用語の理解を深めていく。
- ・既習事項と関係づけ、課題が解決できるような授業を行う。
- ・評価規準に則し、数学用語を用いた、「具体的な振り返り」や「まとめ」を行う。

# 【 中 津 市 】

## 平成28年度 全国学力・学習状況調査結果（質問紙）

### 1 調査結果の概要（小6・中3に対する児童生徒アンケート結果）

調査項目（％）		小学校第6学年			中学校第3学年		
		中津市	県との差	全国との差	中津市	県との差	全国との差
平日に読書をしている児童生徒の割合		79.5	0.3	0.1	58.4	3.2	▲4.4
テレビ視聴時間（3時間以上）	平日	41.0	1.6	4.9	36.2	8.5	5.7
学習時間 小：1時間以上、中：2時間以上	平日	53.7	▲12.9	▲8.8	29.8	▲12.8	▲4.4

全国平均に比べて特徴的な項目（％）	小学校第6学年			中学校第3学年		
	市	県との差	国との差	市	県との差	国との差
（1）生活・学習習慣						
家の手伝いをしていますか（よくしている）	39.1	4.4	4.0	26.7	2.9	4.8
家で、学校の予習をしていますか（している）	35.9	▲1.0	▲7.4	26.4	2.4	▲7.8
家で、学校の復習をしていますか（している）	51.0	▲0.8	▲4.2	67.0	10.7	▲7.2
先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか（当てはまる）	37.4	▲8.1	▲4.8	27.1	▲7.1	▲5.1
（2）授業の様子						
昨年度に受けた授業のはじめに、目標（めあて・ねらい）が示されていたと思いますか	87.3	0.7	▲0.3	90.7	0.8	5.8
昨年度までに受けた授業で扱うノートには、学習の目標（めあて・ねらい）とまとめを書いていたと思いますか	93.5	3.5	5.6	89.3	2.1	12.5
「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか	51.3	▲4.1	▲14.1	35.6	▲14.8	▲22.1
（3）地域・社会への関心						
地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか	54.9	▲6.3	▲5.8	57.6	▲11.4	▲12.6
（4）調査問題について						
調査問題の解答時間は十分でしたか（国語B）（足りなかった）	33.3	▲5.1	▲5.3	21.9	▲0.9	▲7.1
調査問題の解答時間は十分でしたか（算数B・数学B）（足りなかった）	50.2	▲5.0	▲8.0	45.6	▲1.6	▲9.2

## 2 調査結果の概要 ( 学校質問紙 )

全国平均に比べて特徴的な項目 (%)	小学校			中学校		
	市	県との差	国との差	市	県との差	国との差
(1) 図書館、ICT活用						
前年度に、図書館資料を活用した授業を計画的に行いましたか(月1回以上)	28.6	▲21.8	▲14.5	0.0	▲15.8	▲11.6
国語の授業において、コンピューター等の情報通信技術を活用した授業を行いましたか(月1回以上)	42.8	2.4	0.1	10.0	▲8.0	▲10.2
算数(数学)の授業において、コンピューター等の情報通信技術を活用した授業を行いましたか(月1回以上)	66.6	15.8	15.6	20.0	▲11.7	▲11.6
(3) 補足的サポート						
調査対象学年の児童に対して、前年度に、放課後を利用した補足的な学習サポートを実施しましたか(週1回以上)	61.9	7.8	29.9	80.0	24.2	54.7
調査対象学年の児童に対して、前年度に、長期休業日を利用した補足的な学習サポートを実施しましたか(行った)	100.0	9.4	35.7	100.0	10.0	20.2
(11) 授業改善のための取り組み						
前年度までに、近隣等の小学校(中学校)と教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定など、教育課程に関する共通の取り組みを行いましたか(行った)	19.1	▲38.9	▲28.0	10.0	▲45.8	▲44.9
授業研究を伴う校内研修を前年度に何回実施しましたか(年間5回以上)	80.9	▲1.1	▲5.0	90.0	14.1	22.6
校長は、校内の授業をどの程度見て回っていますか(月に数日~毎日)	95.2	▲1.9	0.9	100.0	8.3	17.2

## 3 成果と課題

- 教師が子どもを認めてくれているという評価が低い。また、校長も子どもの熱意や礼儀に対する評価が厳しい。これは、自尊感情を高めることを阻むのではないか。
- 子どもたちは「総合的な学習の時間」で自ら課題を見つけて学習する機会が少ない。また、ボランティア活動にも取り組んでいない。ということから、学習の楽しさ、役立ち感といったことを味わう経験が少ないと感じる。与えられた学習をこなすことに終始し学び方が身に付いてしまっていないか。
- めあて、ねらいを示した授業の実践や校長の授業巡視もほぼ完璧に実施されている。放課後等の補充指導の場も非常によくなされている。しかし、これらのことが子どもの学習意欲や、学習の定着に結びついていないのはなぜか考える必要がある。
- 学校図書館司書、ICT関係の人員や設備等も充実している。しかし、その活用が進んでいない。場や機会の提供だけでなく、どう教育課程の中で活用していくかの工夫が求

められる。同時に進行管理に関する意識を高める必要がある。

#### 4 質問紙の成果と課題をふまえて

##### ■活用型、探求型の学習指導の充実を図る

- ◆ 課題解決型授業の実施を各教科で徹底する。《ゴールを明確に》《子どもの学姿から授業を見直す》
- ◆ 総合的な学習の時間における探求的・協働的な学習指導を徹底し、子どもの学習意欲の向上を図る。
- ◆ 学校図書館司書と授業者の連携を強化して、学びの広がりを図る。

##### ■個に応じたきめ細かな指導の重視

- ◆ 習熟の程度に応じたきめ細かな指導方法の開発と実践の積み重ね、基礎基本の定着を図る。
- ◆ 『なかつ学通信』等を活用し、教員の共通化を図り意識を高める。

##### ■職員研修を工夫し、授業改善の機運を高める

- ◆ PDCAをふまえた研修方法の見直しと深化
- ◆ 国の事業を中心にして、研修の体系化を図る
- ◆ 校長会と市教委とで、市の重点施策の精選、検討を行い、授業や子どもと向き合う時間を確保する